

# あすろ通信☆三

岡山アストロクラブ 会報 第6号

2010年2月

## ■活動状況報告

### 活動

#### ▼定例観望会

昨年11月～今年1月までに予定していた定例観望会については、期間中予定3回いずれも中止することなく実施できました。また、2009年中に一般参加として来て下さった方々も延べ86名お迎えし、100名には届かなかったものの、思いの外たくさんの方に天体観望をしていただけたようです。

#### ・2009/11/21

場所:岡山市東区瀬戸町

参加:会員9名、一般6名の計15名

夜半前に雲が出たため夜通しの観望とはなりませんでした。一般参加の方々と楽しく観望しました。



▲11/21 観望会

#### ・2009/12/19

場所:岡山県赤磐市是里

参加:会員13名、一般3名の計16名

素晴らしい冬の星空を満喫しました。



▲12/19 観望会(会員のT#さん撮影)

#### ・2010/1/16

場所:岡山県吉備中央町

参加:会員11名、一般3名の計14名



▲1/16 観望会(吉備高原都市21世紀の森)

### その他の報告

過去3ヶ月(2009/11～2010/01)の件数等の報告

#### ▼ホームページ

・サイト全体の Page View 16193 PV

※対前四半期 87%

(各月内訳)

・2009/11 5373 PV

・2009/12 4773 PV

・2010/01 6047 PV

なお、2009年一年間の全PVは54695でした。

#### ▼問い合わせ・入会等

・9件 ※HPフォームからのもの

うち、機材に関する相談は1件、観望に関するご相談が2件ありました。その他は入会手続き、一般連絡などです。

#### ▼メーリングリスト利用状況

・439件

なお、2009年一年間の全メール件数は1734件でした。

#### ▼会員数

前四半期中に正会員1名、準会員2名を迎え、2010/01末時点の会員数は、正会員12名、準会員13名の合計25名となりました。

## ■連載記事

### 季節の星空

#### 第6回「花粉に負けない春の夜空はいかがです？」

私は花粉症です(泣)

この季節はホント辛い...くしゃみは連発、目に涙...

そんな潤んだ瞳でもハッキリ魅せる星々がこの季節にもあるのです。

そんなキビシイ季節ですが、気温の高まりに身を預け、ひとときの夜空散歩を。

春の星座探しといえどとにかく最初は北斗七星ですね。これは「おおぐま座」にあるんですが、私がかつて小学校の理科で習ったイメージでは「おおぐま座」の一部としてではなくあくまで「北斗七星」として覚えた気がします。まあ当時の教育カリキュラム上、致し方なかったか、教師にそれ以上のサムシングを生徒に求めなかったのかは、今となっては謎ですね...おっとハナシが逸れてしまいました。

#### ▼春の大曲線

先ほどの「北斗七星」は鍋っというか柄杓に例えられますが、その取っ手のカー

### 近々の観望会等予定日

#### 2月13日(土) 定例観望会

赤磐市是里 月齢0.0 16:57 入

#### 3月20日(土) 定例観望会

東区瀬戸町 月齢4.7 22:36 入

#### 4月17日(土) 定例観望会

赤磐市是里 月齢2.9 21:31 入

#### 5月1日(土) 定例観望会

東区瀬戸町 月齢16.7 21:51 出

※開催場所は変更することがあります

ブを伸ばしてゆくと次々と明るい星が見つかりますね。まずダイダイ色のうしかい座の「アークトゥルス」、そして青白く光る乙女座の「スピカ」。もうココまで言えば皆さんご存じの「春の大曲線」が描かれていることに気付かされます。

### ▼春の大三角

そしてこの曲線の内側に位置する星座が「しし座」です。この星座は多くの明るい恒星を持っており「レグルス」「デネボラ」「アルギエバ」が煌々と輝きます。この中でシッポというかオシリと言うべき位置の「デネボラ」と「アークトゥルス」と「スピカ」、この3点を結ぶ様を「春の大三角」と呼んでおり、まあ春の天体の屋台骨？といった風格です。

そんな春の大三角を含むように大きく菱形を描く先にはりょうけん座の「コル・カロリ」があります。これは変光星と言われる明るさが一定ではない特徴的な恒星の一種です。

### ▼子持ち銀河 M51

ココまで来れば先のりょうけん座の M51 を忘れる訳にはいきません。典型的(というか初めて渦巻き状であると確認された)な渦巻き銀河であるコレが有する面白い特徴は伴銀河を従えているコトです。その形態故に「子持ち銀河」というとってもラブリーな愛称で親しまれています。

子供の頃からの宇宙モノでは「○○○銀河からやってきた△△△」なんて言われて TV 的ショットで渦巻き状の銀河らしきモノが写っていたのは遠いムカシの思

い出ですが、コレが意外にも説得力があるんですよね。

渦巻銀河というのは放射状に成長していると言われるカタチでして、コレはひとえに大型の銀河である証明であるとのこと。「これだけ遠いけど、とても多くの星々の集合体なら高度な異文化もあり得るだろうね」と考えるのは早計でしょうか？(笑)



▲M51 子持ち銀河(編集人撮影)

はたしてコレは春の天体と言えるのか？ってカンジですが、やはり見逃せないのが「土星」です。老若男女誰もが知ってるとってもステレオタイプな惑星ですが、まもなく3月23日には地球に最接近です。

まあ最接近と言っても太陽系の中でもケッコー離れているのでビックリするほど大きくみえるワケではありませんが...

この時期からは乙女座の方向に見えますので春の天体を満喫していると否が応でも？目に入ってくる位置関係となって参ります。ただ残念なのが、昨年に最大の特徴である「わっか」が消えてしまった為、カッコイイ土星ではなく「串団子」な装いになってしまったコトです。

もう少し傾いて？カッコよくなるのは3年くらいかかりそうです。



▲最近の土星(Morte氏撮影)

(執筆:コニー)

※この記事の星図は土星が衝を迎える3月23日の配置で、アストロアーツ(株)のステラナビゲータ8の出力画像を元に作成しました。





## うんちくあれこれ

### 第6回 ～観望グッズあれこれ～

やっとこのコーナーのお鉢が回って来た編集人 Sirius です。毎回寄せられた原稿を体裁良く？整わせるだけでは少々飽きが来ていたところでした(笑)

さて、ノリクダリとはありますが、天文の趣味に人生の片足を突っ込んでいると、天文機材などより愛着の沸くモノが出て参ります。今回は、そんな軽い題材でうんちくを見事に語りきってみたいと思いますので少々お付き合いくださいませ。

まず、天体観望や撮影に赴き出すと、よほどビタミン A が豊富な方は別として、必ず必要にあるアイテムがありますよね？

そう！「ライト(電灯)」です。機材のセッティングや資料の閲覧などではどうしても必要なシーンがあります。とはいえ、一般的に暗い場所で目が暗順応するには数十分以上必要と言われるとおり、せっかく暗順応させた目に強烈な光線を食い込ませる訳にはいきませぬ。そこで出来るだけ目にソフトで且つ暗順応を出来るだけ損なわないように「赤灯」を使うわけでございます。

天体観望時のライトとして使うのであれば、ホームセンターなどで最近販売している LED ヘッドライトなどもよいのですが、「赤灯」というのがなかなか標準ではありません。しかへし、そんなものでも 100 円ショップなどで売っている暗記用の赤い下敷きなどをフィルターにして被してしまえば十分使えます。

また、アウトドア(特に登山用)のショップに行けば、少々お高いですが、赤灯へのフィルター切り替えがワンタッチで行えるモノもあり、とても便利に使えます。

これから天体観望の趣味に走ろうという方は、大事なモノを落したり、踏んづけたりしちゃう前に「ライト」をぜひ手に入れましょう。間違っても強力なハロゲンライトは買わないようにお願いいたします。



次に、最近手放せないのが、テントの下などに敷く折りたたみできるシート(クッション)であります。

こいつは、使い方にいろいろありまして、折りたたんだ状態では、膝付きお祈りスタイルの望遠鏡覗きやパソコン操作にパッチグー(死語っすか)でございます。

また、広げた状態では、機材の置き場になったり、流星群観望にも使います。

冬場など地べたに広げて座っていても、お尻が冷え切ってしまうことはございませぬ。

さらに、機材が野積みとなる車載の際には、シートを緩衝材に使用することもよくあります。

また、このシート、気分の悪いときにドツキ回してストレス解消もできます。

まさに、一品五役の素晴らしいアイテムというほかございませぬ。



さて、次に語るのは少し欲張りなアイテムかも知れませんが、座面高の変えられるイスの紹介です。これがあると、ドブソアンや屈折鏡筒などで観望する際、大変楽に&ゆっくりと観望できます。一部のホームセンターで手に入るリリーチェアーと申すキッチン用のイスでございます。

高さが 6 段階に変化でき、収納時も非常にコンパクトになるのであります。剛性・機能性もさることながらお値段も財布に優しく五千円程度で手中に収めることができます。クラブの観望派では人気で、ステータスアイテムとも呼べる一品です。

では、これからは冬場の防寒アイテムを紹介していきましょう。冬の夜、屋外はめちゃくちゃ冷えます。必要以上に防寒対策してちょうどよいことがほとんどです。

防寒グッズの最初は・・・写真は恥ずかしいので掲載しませんが、登山用のアンダーです。体の水蒸気・熱で遠赤外線を発するという代物ですが、長袖、長パッチと揃えると高いモノだと 1 万円近くするか

もしれません。でも、厚手の上着一枚分以上は確実に暖かく、少しでも身軽になるにはあり得る選択だだと思います。

次に手袋と帽子です。手袋は釣り具屋さんなどで売っている親指・人差し指・中指だけ半分先のないものが便利です。機材やパソコンのマウスパッドを触る際には素手ならず「素指」でないと困ることが多いからです。これは千円も出せば買えちゃいます。

帽子もかぶった方が断然暖かいですね。目出し帽のようなやつでもよいかもしれませんが、確実に不審人物に間違えられます。そもそも誰だか分かってもらえません。

頭だけすっぽり被るような毛糸の分厚い帽子もよいですが、難は、ヘッドライトの装着が帽子ごと動くため安定しにくいという点です。

私は、写真のようなものを最近使いますが、耳や頭の後ろまで覆ってくれて、なおかつヘッドライトが安定して取り付けられるので重宝しています。これも釣り具屋さん仕様です。



頭の先が完璧なら、それ以上に完璧にしたいのが足元であります。ウェットスーツ生地もどきの足あてをソックスの上から履き、仕上げは通称どさんこブーツで完璧です。どちらもホームセンター仕様であります。



以上、ありきたりなグッズでしたが、私にとっては意外と欠かせないものばかりで、忘れてしまうと調子が出なかったりしちゃいます。

天体観望などでは、皆さんもあれこれと愛着を持つようになる天文機材以外のアイテムが出てくると思います。「ばっち一号」とか「赤灯よしこ」などと名前でも付けて大事に長く使ってあげましょう(^\_^)

(執筆: Sirius)

## 会員紹介

### 「T#」

岡山アストロクラブ会員ナンバーセブン、姓はT、名は#と申します。生国と申しましては備中国水島、育ちは備前国児島郡の45歳ミッドフォー完全なる中年です。先駆者たちのようなオモシロい自己紹介になるかは甚だ心許ないのですがしばしおつきあい下さい。

さて、自分は小さい時から空を見るのが好きだったらしく「あんたはよう空見よったよ」との証言が当時の保護者から得られております。当時田園地帯の真ん中に住んでいたので70年代初頭とはいえ今よりはるかに星がよく見えていたはずですが、そんな自分に父親が買ってくれたのが口径四糎程度のガリレオ式望遠鏡。しかしこの望遠鏡は試しに分解したところ二度と元に戻りませんでした。

時は流れて近郊市街地に引っ越して中学生になった自分にこの道にさらに踏み込む転機が…。それは78年3月の皆既月食でした。ちょうど春休みで図書館からたまたま野尻抱影氏の「星座の話」を借りて読んでいたときの事でした。望遠鏡も何も持っていなかった自分ですが月がだんだん欠けていって皆既になるとそれまで満月に押されていた星々が輝きを取りもどし、その中に赤いフシギな色の月がぼっかり浮かんでいる…。折しもスターウォーズを嚆矢とした70年代後半の宇宙ブームに沸いていた頃でもあり、これで天文熱が発火。スーパーカーよりも望遠鏡という天文少年の一丁上がりでした。ということでお次は望遠鏡です。小遣いを貯めて中山下イズミにて3000円の望遠鏡を買って色々見たもののうまく見えないので内部の絞りを取り去るとあら不思議、極彩色の世界が広がりますにレインボー。早々にこの望遠鏡には見切りをつけたものの所詮中学生、財政力は知れてます。やむなくA新聞早朝配達のアルバイトをして買ったのがピクセンでもミザールでもなく御三家筆頭Sピーチの114mm反射。これは○クト○ーという名前にもかかわらず(後で考えると)パチモン臭漂うシロモノでした。

それでもこの望遠鏡で環消失前後の土星や金星、木星、はたまたサングラスつけて太陽黒点と色々見ることが出来ました。

さて、なんとか受験もくぐり抜けた高校時代。ここではたまたま出会った面々と天文班を結成し(OmegaCさんとはここからのおつきあい)、3年間観測会や写真撮影、プラネタリウム自作などに明け暮れました。大学は関西地方へ。ここでようやくまともな望遠鏡・高橋製作所FC65Fを入手。天文同好会に入会してやっぱり南紀遠征や信州合宿等の星三昧そして卒業、阪神地方へ就職。普通の人は天文はこれにて卒業と相成るのですが、他に楽しみのない自分は初任給を半年貯めて当時ほぼ最高峰の高橋製作所FC100を買うという暴挙に出ます。それからしばらくは望遠鏡熱は収まっていたものの2000年にシュワルツ15糎を買ってから再燃。銀次300D、R200SS、MC127L、挙げ句の果てにはTOA130とまー我ながら良く買ったものだ、と思います。

これだけ望遠鏡を買ってさぞや専門的な事をしているのかと思いきや全くそんなことはなく、月見たり二重星みたりはたまたま星雲星団見たり…。写真撮影も好きですが下手の横好きというやつでいわゆる「なんちゃって撮影」なかなか上達しません。どちらかというと記録写真の趣でしょうか。いずれもマイペースでぼつぼつやっています。

星は一人で見てもきれいだし、楽しいです。けれども、仲間と一緒に見るとさらに楽しく見ることができると思います。星座は毎年同じように回ってきます。しかし、全く同じ星空はありません。その時々で見えるある意味一期一会の夜空を仲間と共有できるということは貴重だと思います。このクラブで楽しく星を見ることが出来てラッキーです。とりあえず細く長く星見を続けていこうと思いますので皆様よろしくをお願いします。

(執筆:T#)



**○クト○ー114**  
**100%反射経緯台**  
**上下水平微動装置**

主 鏡 D114<sup>mm</sup> F900<sup>mm</sup>  
接眼鏡 フルコート  
H M 6<sup>mm</sup> H M 12.5<sup>mm</sup>  
K 20<sup>mm</sup>

倍 率 150× 72× 45×  
接眼部 直進ヘリコイド式  
付属品 6×23<sup>mm</sup>ファインダー  
光軸修整用アイピース  
サングラス  
スライド式二点止  
三脚一式

**特価¥29,800**

▲ 天文ガイド1978年6月号広告ページより

## クラブ会員を募集中

岡山アストロクラブでは、一緒に活動して下さる方を随時募集しています。

毎月行う定例観望会(アポなしの一般参加可能)のほか、月に数回程度集まって楽しくやっています。

これから機材を購入して天文の趣味を始めようとお考えの方や仲間作りをされたい方など大歓迎です。

会員登録のお申し込みは以下のインターネットのホームページでのみ受付しておりますので、アクセスの上、入会手続きを行ってください。

<http://oac.d2.r-cms.jp/>

発行元

岡山アストロクラブ事務局

発行日

平成22年2月13日

編集

Sirius

記事執筆(順不同)

コニー

T#

Sirius

※本会報に使用した写真・絵・文章の著作は、各執筆者、画像提供者、画像引用元にあります。

### 【次号予告】

次回発行は平成22年5月に予定

### ▼掲載記事予定(執筆予定者)

「季節の星空」 イノウエシゲル  
「うんちくアレコレ」 Mizutani  
「会員紹介」 Gumbo

※掲載予定記事、執筆予定者は都合により変更することがあります。



クラブ WEB ページ

URL:<http://oac.d2.r-cms.jp/>